

## 教材・支援機器活用実践事例【ICT】

## 遠隔地とつながるための ICT 活用 「Web 会議システムを活用した交流及び共同学習」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・中学部
	障がい名等	視覚障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	・ 他県の視覚特別支援学校と、年に2～4回のオンラインや手紙による学部同士の交流及び共同学習を継続している。
授業について  (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	総合的な学習の時間
	単元(題材)名	単元名「オンライン交流」
	単元(題材)の概要	・ 同じ障がい種の生徒同士が、お互いの学校の紹介したいことを伝え合ったり話し合ったりする機会をもつ。
教材・教具 支援機器について	教材・教具 支援機器	 <p style="text-align: center;">画面共有で写真の紹介</p>
	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉</p> <p>○ 相手とのやり取りを楽しみ、オンライン交流でできることを主体的に考えながら参加できる。</p> <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンライン会議の環境で伝えられることを考え、事前の話し合いや役割分担を行いながら準備に積極的に参加できるようにする。</li> <li>・ 事前に学校間でメール連絡を取り、十分に打合せをしておく。</li> </ul>
	材料・作成方法等	PC、TVモニター、Zoom
子どもの変容や評価		・ 交流及び共同学習を繰り返し実施することで、回を重ねるごとにオンラインのやりとりに慣れ、話題に対する考えが深まり、交流だけでなく遠隔での共同学習もできる状態になってきている。

(令和4年度)